



2016教育改革推進!!

AL授業実践レポート Vol.4

7月19日(火) 6限/中2-1/国語
担当: 松村先生

単元: 「走れメロス」3回目/全6回
目標: メロスの心情の変化をグラフ化しよう。

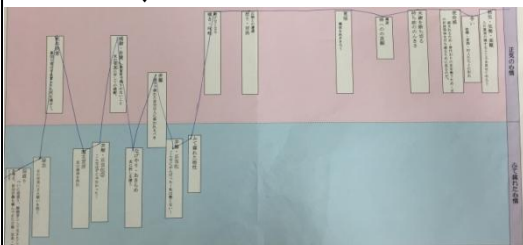
「走れメロス」について

太宰治作。中2の国語では必ず扱う鉄板教材。

“王の怒りを買って処刑されることになったメロスは、親友を身代わりに3日の猶予をもらって妹の結婚式に出、再び処刑場へと走る。その途中、物理的・心理的障壁と闘いながらメロスはようやく友のもとへたどりつく。命をかけた友情と信義の物語。”

〈従来の一斉授業の展開パターン〉

先生が心情表現を適宜ピックアップしながら、黒板にグラフを描いていく。



〈良い点〉

きれいなグラフが出来上がる。

「正解」がわかる=テスト勉強しやすい

〈悪い点〉

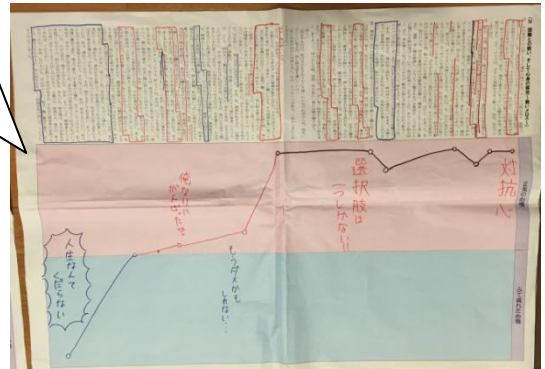
指名された生徒しか考えず、その他は板書を書き写す「作業」になる。

実は「たったひとつの正解」が存在しないものにもそれが存在する錯覚を生む。

〈松村先生の AL 型授業〉

グループで相談しながら心情表現をチェックし、それをもとに生徒オリジナルのグラフが出来上がる。

グラフに自主的に見出しを付け始めたグループがありました。



何かを書きこんでいるグループを横目で見た他のグループも、グラフを補足する情報を書き込み始めました。

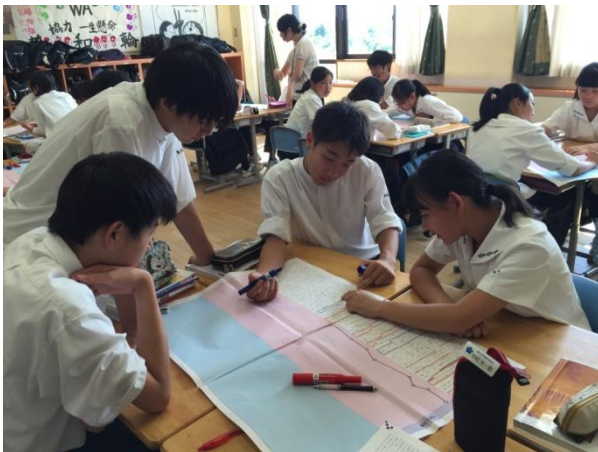
〈良い点〉

生徒が全員「考え」て、「活動」している。

自由な解釈が許される小説の楽しみを体感する。

〈悪い点〉

全体での共有化と教員によるまとめをしない場合は「活動ありき」に終始し、「なんでもあり」の無秩序に終わる。



「みんなで考えて(グラフを)作ったから楽しかった！」

「一人でやるよりわかりやすかった！」

「相談しながら考えるのがよかった！」

小説解釈とは本来十人十色であり、その楽しさを知るところから国語への興味は始まります。私たち教員はどうしても、「より正しくより詳細な」解説や情報を与えたい欲にかられますが、対象とする生徒たちにとってどこまで必要なのかを考えながら、伝える情報の量や質を吟味しなければならないと、改めて感じました。松村先生はこの後、グラフを全体共有し、共通点と相違点を確認して「答えがひとつ」の部分と「複数ある」部分を明示する予定だそうです。考査ではどんな問題を作成されるのかも興味があります。(森内)